



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要								
建物名称	三島駅南口東街区A地区第一種市街地再開発事業施設建築物			BEE	1.3	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度									
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価						
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.3	/5				ふつう			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.4	/5				ふつう			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.3	/5				ふつう			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5	/5				がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上		ふつう 3 点以上		がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>		得点	<b>3.3</b>	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①住宅性能評価取得予定</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥植栽により、良好な景観を形成している。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦省エネ性の高い複層ガラスを使用している。 ⑧太陽光発電設備を共用室に利用している。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪衛生設備に節水コマが設けられている。 ⑬F☆☆☆☆を使用している。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮ライフサイクルCO2が基準値の88%</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>		得点	<b>3.4</b>
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯免震装置の採用。</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
	<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>		得点	<b>3.3</b>
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳共用部分の天井高:5.0m。また、耐用年数が高い躯体材料、内装仕上材、給排水配管を使用している。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑ライブラリーや共用室、バルコニーを設置している。</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ㉑	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上		
	<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>		得点	<b>2.5</b>
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑥生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ㉒建物の周りの緑化率が高く、建物高さ、外装の形状や色彩において、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている。 ⑥植栽により、良好な景観を形成している。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮ライフサイクルCO2が基準値の88%</p>	Q-3 1 ⑥ 2 ⑥ 3 3.2 ⑥ LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮	⑥ 生物環境の保全と創出 ⑥ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善		

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三島駅南口東街区A地区第一種市	階数	地上24F
建設地	静岡県三島市一番町2785番10 外	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,650 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	物販店、飲食店、集合住宅、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年2月 予定	評価の実施日	202●年●月●日
敷地面積	10,053 m <sup>2</sup>	作成者	○○○
建築面積	6,775 m <sup>2</sup>	確認日	202●年●月●日
延床面積	39,349 m <sup>2</sup>	確認者	○○○



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 88%  
③上記+②以外の 88%  
④上記+ 88%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果です。 耐用年数高い材料を使用し、ライフサイクルコストを低減している。また植栽を地上に積極的に行っている。		<b>その他</b> 敷地内に地下水観測井戸を設け、工事中及び竣工後約一年間にわたり地下水に異変がないか観測している。
<b>Q1 室内環境</b> 開口部遮音性能 T-2以上。また、F☆☆☆☆を使用している。	<b>Q2 サービス性能</b> 共用部分の天井高:5.0m。また、耐用年数が高い躯体材料、内装仕上げ材、給排水配管を使用している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 建物の周りの緑化率が高く、建物高さ、外装の形状や色彩において、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている。また、植栽により、良好な景観を形成している。ライブラリーや共用室、バルコニーを設置している。
<b>LR1 エネルギー</b> 外皮性能が高い。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 衛生設備に節水コマが付けている。また、発泡剤がない断熱材を使用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 交通負荷抑制に取り組んでいる。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される